

教育行政の動向と これからの私たちの取り組み

一般社団法人全国図書教材協議会協会長会議

2025年9月26日

一般社団法人全国図書教材協議会

専務理事・事務局長 渡部竜士

最近の文科省の動向

デジタル教科書の制度化

「デジタル教科書推進ワーキンググループ審議まとめ案」 (9月24日)

⇒デジタルも教科書検定対象に

(2030年小学校改訂、2031年中学校改訂)

審議まとめ案 (概要) 基本的な考え方より

紙かデジタルかの「二項対立」ではなく、どちらの良さも考慮し、教育課程・授業全体として紙・デジタル・リアルを適切に組み合わせてデザインすることが重要

※紙の良さを生かすことや手を動かして書くことは今後とも重要

最近の文科省の動向

デジタル教科書の制度化

これまでの日図協・全図協要望事項

1. デジタル教科書と教材の明確な区分け
2. 教科書のQRコード先のコンテンツの取り扱い
3. デジタル教科書と教材の連携
4. **学校による主体的な教材選択**
5. 教科書準拠教材作成への配慮

審議まとめ案

- 1. **区分けの方針**
- 2. **教科書であれば検定対象**
- 3. **今後の検討事項（引き続き働きかけ）**
- 4. **一定の理解（学校の判断で使用の記述）**
- 5. **今後の検討事項（引き続き働きかけ）**

最近の文科省の動向

学習指導要領の改訂に向けた検討⇒2030年改訂に向けて

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)(2024年12月)

⇒教育課程企画特別部会で検討(1月～9月、現時点で計12回開催)

⇒**論点整理案提案(9月19日)**

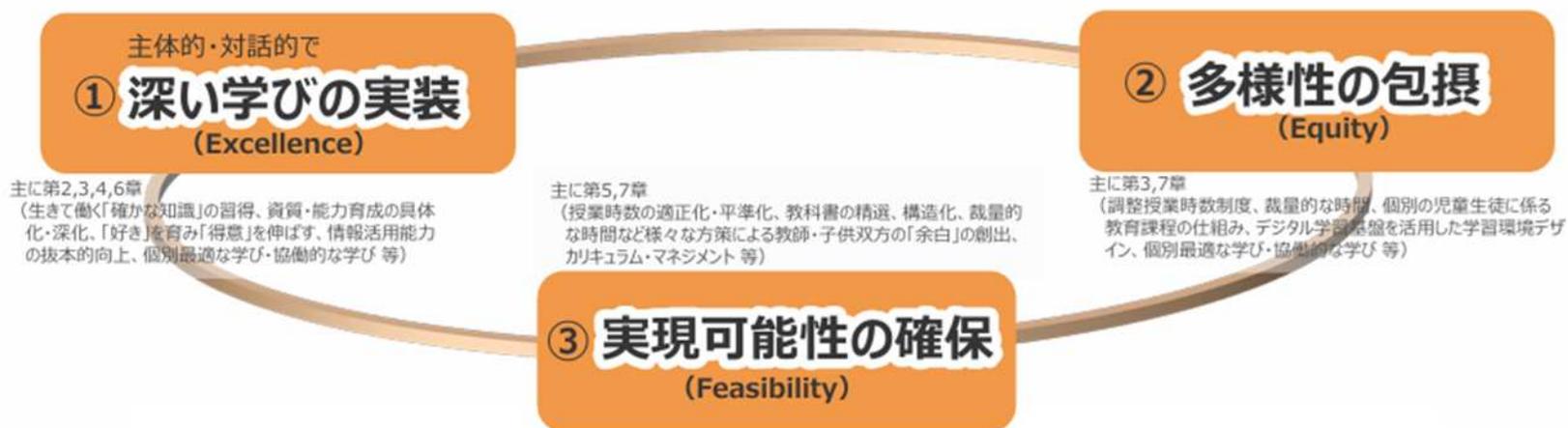
これまでの検討での主な論点

- ・ 学習指導要領の一層の**構造化**
- ・ **柔軟な教育課程編成**の促進について
- ・ **デジタル学習基盤と「個に応じた指導」**の在り方について
- ・ **情報活用能力の抜本的向上(デジタル化社会の負の側面への対応を含む)**
- ・ **質の高い探究的な学びの実現(情報活用能力との一体的な充実)**
- ・ **豊かな学びに繋がる学習評価の在り方～過度な負担を生じさせない在り方の両立～**

⇒**今後各教科等のワーキングで検討**

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
 「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

最近の文科省の動向

学習eポータル標準仕様改訂（Ver5.00）（3月末）

正式名称「初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデル」

⇒協会で委員として参加し、運用面での改善を強く提案してきたが…あまり反映されず
日図協・全図協で主張してきたこと

- ・学習eポータルの公共性の担保を図ること
- ・教材の販売、提供方法について、教材会社側がイニシアティブをとれる仕組みにすること
- ・デジタル教材提供には、学習eポータルへの搭載が必須ではなく、自治体に対して様々な教材提供に配慮するように働きかけること

⇒今年度も専門委員として渡部が参加（第1回、9月24日開催）、引き続き主張

全国学調のCBT実施（4月13～17日）

令和7年度の全国学力・学習状況調査の中学校理科で、MEXCBT（CBT・IRT）を活用して実施。

最近の文科省の動向

「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」改訂（3月）

教育委員会等では、文科省のガイドラインを参考に、それぞれの教育情報セキュリティポリシーを策定し運用

⇒デジタル教材（クラウド管理）の導入に際して、あらかじめ事業者を確認する項目なども定めているところが多いので、出版社だけでなく販売店も地元の教育委員会のセキュリティポリシーを理解しておく必要あり

「学校における補助教材及び学用品等に係る保護者等の負担軽減について」（通知） （6月25日）

保護者等負担で購入していた教材の学校備品化として、これまで保護者等負担で毎年購入していた教材（例：算数セット、彫刻刀、裁縫セット等）を学校備品として整備することで、保護者等の負担軽減を図った事例を紹介

⇒今後の採択への影響を注視していく必要あり、児童持ちの重要性をどのように訴えていくか今後検討

最近の文科省の動向

学校のFAXの見直し

教育DXに係る当面のKPI

インプット (ハード面)

① 1人1台端末

② ネットワークの改善

インプット (ソフト面)

③ GIGA×校務DX

④ 端末の積極的活用

✓ クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校※
5.5%(R5)→100%(R8)★

(※) 児童生徒・保護者との欠席・遅刻・早退連絡や各種連絡・調査・アンケート、校内での情報共有や資料共有、調査・アンケートについてクラウドサービスを積極的に取り入れている学校

✓ FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校
1.1%(R5)→100%(R7)★

✓ 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校
●→100%(R7)★

✓ 生成AIを校務で活用する学校
1.2%(R5)→50%(R7)

✓ 次世代の校務システムの導入に向けた検討を行う自治体
63.4%(R5)→100%(R8)★

な活用の前提条件の整備

AN又は移動通信システム(LTE等)によりインターネット接続を行う普通教室の割合
④(R4)→100%(R6)

④用に係る回線の速度を計測・把握した学校
30%(R6)

ある学校についてアセスメント実施済みの割合
00%(R7)

ネットワーク速度確保済みの学校
④→100%(R7)

リアルタイム調査

対応の教育情報セキュリティポリシー策定済
④(R5)→100%(R7)

苦手意識の軽減 余剰時間の創出

✓ クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校※
5.5%(R5)→100%(R8)★

(※) 児童生徒・保護者との欠席・遅刻・早退連絡や各種連絡・調査・アンケート、校内での情報共有や資料共有、調査・アンケートについてクラウドサービスを積極的に取り入れている学校

✓ FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校
1.1%(R5)→100%(R7)★

✓ 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校
●→100%(R7)★

✓ 生成AIを校務で活用する学校
1.2%(R5)→50%(R7)

✓ 次世代の校務システムの導入に向けた検討を行う自治体
63.4%(R5)→100%(R8)★

① 学びの充実 ② 情報活用能力の向上 ③ 学びの保障 ④ 働き方改革への寄与

✓ 情報活用能力の底上げ
①小:レベル3, 中:レベル5以下の減少※
小: 49.9%(R4)→20%以下(R8)
中: 57.1%(R4)→20%以下(R8)

②キーボードによる日本語入力スキルの向上
(文字/分) (R4)→40字(R8)
小: 15.0字(R4)→60字(R8)
中: 30.0字(R4)→60字(R8)

(※) 情報活用能力を9段階(レベル9が最高)に
分けて調査している(主な観点として、①基本的
な操作・活用等、②問題解決・探究における情報活
用、③プログラミング、④情報モラル・セキュリティが含
まれている。)

✓ 希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への
参加・視聴の機会を提供している学校の割合
●→100%(R8)

✓ 希望する児童生徒への端末を活用した教育相談を
実施している学校の割合
●→100%(R8)

✓ 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端
末を活用している学校の割合
●→100%(R8)

✓ 障害のある児童生徒や病後児等、特別な支
援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用
した支援を実施している学校の割合
●→100%(R8)

✓ 次世代の校務システムを導入済みの自治体の割合
●→100%(R11)★

✓ 教職員の働き方改革にも資する〇ケーショアプリで
の校務処理を行っている自治体の割合
●→100%(R11)

(参考) 2024年中に設定予定である学校における働き方改
革の推進に係る指標(例: 時間外在校等毎月45時間
(国の上限値)以下の割合等)

●: 現時点において未調査の数値 ★: シミュレーションにより進捗を管理するKPI ※本資料については、取組の進捗を踏まえて継続的に見直す。

文科省「次期ICT環境整備方針の在り方WGとりまとめ案(概要)」より

K
P
I

最近の文科省の動向

学校のFAXの見直し～全図協としての取り組み

文科省より、学校とのFAXでのやり取りの慣行の見直し依頼の事務連絡発出（2024年8月9日）日図協・全図協にも協力要請あり。

全図協としては文科省とのやり取りで、主目的である「先生の負担軽減」については賛同・協力する姿勢を示しているが、FAX廃止だけが独り歩きして、現場が混乱することのないように配慮を求めている。

その上で、次の方針を示している。

①学校現場の現状と課題等の情報収集

FAX見直しをしていくにあたっての学校現場の現状や課題、先生方の反応などについての収集

②FAXの代替となる当面の対応事例の情報収集と共有

システム開発までの当面の間、FAXの代替（メール、クラウドサービス等）となる送受信方法の検討が必要なため、会員販売店による代替方法の好事例の収集と共有

③注文システムの開発に向けた研究・検討

学校から販売店への注文システムを全図協として開発していくために、研究・検討を開始

⇒いずれの取り組みも、定期的に文科省担当課へ報告・相談

学校におけるデジタル教材・ツール・システムの概要

デジタル教材	学習支援ツール	校務支援システム
<ul style="list-style-type: none">・ デジタル教科書・ デジタル教材（図書教材付属）・ デジタル教材（単体販売）・ デジタル素材（グラフ、イラスト、動画、音声、アニメーション等）	<ul style="list-style-type: none">・ 協働学習支援ツール（ファイル共有）・ 生成 A I	<ul style="list-style-type: none">・ 成績処理・ 自動採点・ 学習管理

学校・先生による採択

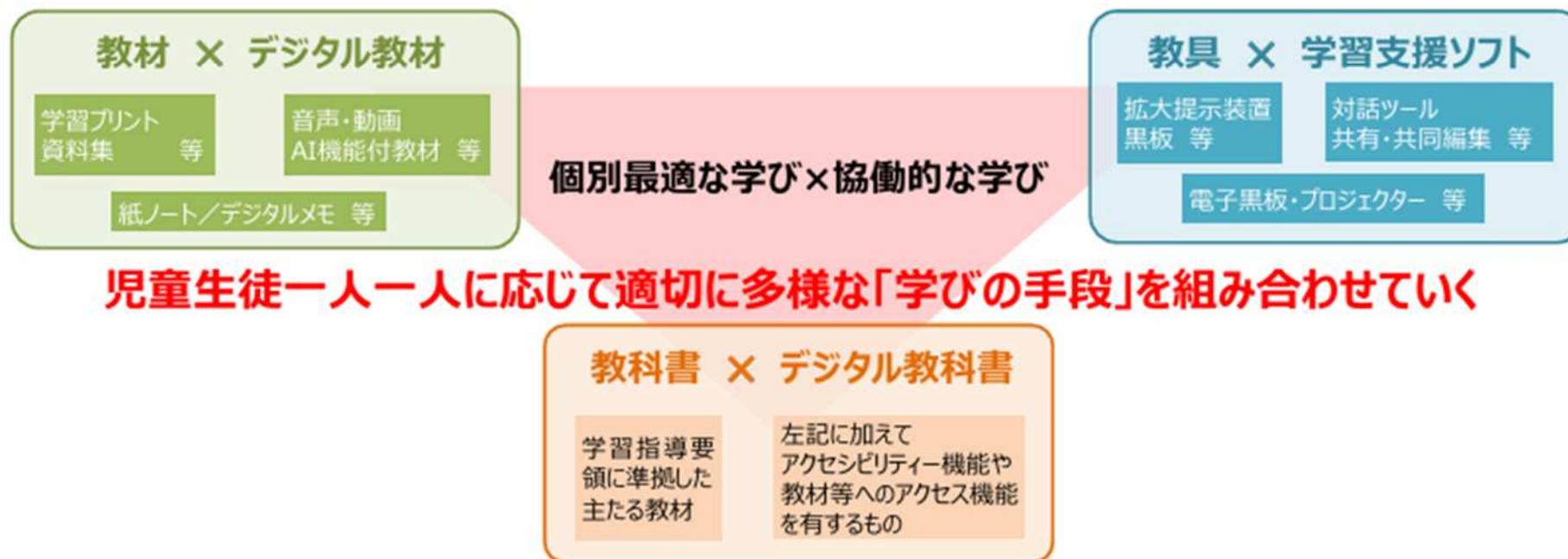


自治体による採択

対象…指導者用／学習者用

提供・使用方法…クラウド／二次元コードでの閲覧／ネット配信／アプリ／CDROM等

デジタル教材の動向（紙とデジタルの組み合わせ）



児童生徒一人一人に応じて適切に多様な「学びの手段」を組み合わせる

文科省においても、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、紙とデジタルそれぞれの良さをどう適切に組み合わせるかという視点が重要であるとしている

デジタル教材の動向（紙とデジタルの組み合わせ）

紙の特長

一覧性・俯瞰性がある

全体が把握しやすく、学習の結果を見渡せるので達成感が得られる。

幅広い問題に対応

記述など、より複雑な問題を出題することができる。

触覚的な使用

ページをめくったり書き込みしたりする感触を感じることで、記憶に定着しやすい。

視覚的な疲労が少ない

長時間の使用でも目が疲れにくい。

集中力の向上

目に入る情報を一つひとつチェックできるため、集中しやすい。

デジタルの特長

学習状況を瞬時に可視化

履歴が残ることで、自分の弱点を把握しやすく、個に応じた対応ができる。

採点・集計業務の軽減

即時採点など時間をかけずに児童生徒へ学習結果をフィードバックでき、配信や集計機能で教師の負担を軽減できる。

アクセシビリティ対応

音声よみあげ、拡大表示、ルビ振り機能など、学習に支援が必要な子どもたちのために様々な対応ができる。

多様なリソース

動画・音声・アニメーションなど多様なメディアを活用できる。

デジタル教材の動向（紙とデジタルの組み合わせ）

◇紙と様々なデジタルツール・機器をどう組み合わせるか

（組み合わせ事例） ※著作権を留意しつつ

図書教材 × I C T 機器

図書教材 × デジタル教材・素材（補助デジタル、二次元コード等）

図書教材 × 協働学習支援ツール

図書教材 × デジタル教科書

図書教材 × 校務支援システム

図書教材 × 生成 A I

デジタル教材の動向（紙とデジタルの組み合わせ）

◇授業及びその他の学習場面において、紙とデジタルをどう組み合わせるか

授業（導入部・展開前半・展開後半・終結部）

朝学習、自習学習、家庭学習

個別学習、協働学習

⇒すでに実践されている具体的な事例などを収集、出版社・販売店で共有、整理し、これが教材活用の新しいスタイルであることを提案、発信していくことが大事

私たちの課題

- ・自治体採択デジタル教材によっては、教材費保護者負担により学校での教材採択の選択肢を狭めてしまい、特定のデジタル教材一択となる地域もあり、多様性・主体性を期待されているこれからの学びに逆行することになっている。
- ・なお、学校用教材はデジタルも「多種多様な教材の中から各学校において児童生徒の実態等に応じ使用することが適当である」（デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議第一次報告）とされている

「良質な教材を紙とデジタルを組み合わせ提案していくこと」

「学校での主体的な教材採択の重要性」

⇒これからの「ゆたかな学び」のためにも、このあたりを、しっかりと学校、教育委員会、文科省等に伝えていくことが大事

私たちの課題～教育委員会等への働きかけ～

目的…**学校用教材の採用維持、拡大**

訴えていくこと…教材費予算を含めた、学校による教材採択の裁量の尊重

ミッション1…教委（学校等）による教材費予算制限（またはそれに準ずるもの）の撤廃

ミッション2…自治体採択デジタル教材の公費予算化
（⇒更新時での自治体採択デジタル教材の撤廃）

私たちの課題～教育委員会等への働きかけ～

改めて知ってもらう

- ・ **学校用教材を知ってもらう（概要、特徴、実態）**

ほぼ全ての小・中学校で採用されていること

ほぼすべての図書教材にデジタル教材・サービスが付属していること

- ・ **協会・業界・出版社・販売店の現状、窮状を知ってもらう**

低価格、教師用負担、その他きめ細やかな対応

- ・ **教育政策を踏まえて私たちの主張を伝えていく（文科省資料を参照しながら）**

良質な教材を紙とデジタルを組み合わせ提案していくこと

学校での主体的な教材採択の重要性

私たちの課題～教育委員会等への働きかけ～

学校による主体的な教材採択の重要性を訴えていくための説得材料

- ①学校用教材は、教師の適切な指導のもとで子どもたちが学習する性質のものであること（v s 学習材）
- ②紙とデジタルを有効に組み合わせた指導と学習が求められていること（自治体採択デジタル教材は「デジタルのみ」であること）
- ③多種多様な教材の中から教材選定が望ましいこと
- ④デジタルという性質上な内容面での教材選定が難しいこと

⇒ **よって、教師による教材採択が重要**

（いくつかの文科省資料を参照しながら説得）

～禁じ手～

- ・自治体採択デジタル教材を直接否定すること
- ・紙かデジタルかという二項対立に持ち込むこと

私たちの課題

文科省等
関係機関、他省庁も
...

業界の認知活動、政策提言

全図協・日図協

- ・教材費予算拡充のための働きかけ
- ・学校の主体的採択の理解
- ・教材の価値役割と、内容面での採択の重要性の周知

教育委員会等
PTA、その他...

教材出版社

学校・先生

子どもたちの学びを支えることを第一義に教材提案、情報提供、聞き取り

教材販売店、各都道府県協会

これからの授業観、教材観に基づく教材の研究
デジタル教材に関する各社共通規格の研究・開発

紙とデジタル、良質な教材の開発

これからの多様な教え方、学び方に合わせた教材活用（紙・デジタル）の提案